

20 世紀前半のイギリスで活動したロジャー・キルターは、主に歌曲で名声を得た作曲家。《4 つの子供の歌》は 1914 年に書かれ、1945 年に改訂された。歌詞は冒険小説『宝島』で有名な作家スティーヴンソンにより、純粋な子供らしい気持ちを歌う。

全 7 曲からなる歌曲集《くじびき》は、フランシス・プーランクが 1960 年、ベルギーの童謡詩人モーリス・カレームの詩に作曲。大人びた落ち着きを持つ曲と、機知に富んだ活発な曲とが交互に歌われる。

ベンジャミン・ブリテンが 1947 年、イギリスの様々な詩人に作曲した歌曲集《子守歌のお守り》(全 5 曲)は、メゾ・ソプラノ歌手ナンシー・エヴァンスのために書かれた。本日は 4 曲を抜粋でお届けする。

ブラジル出身の作曲家エイトル・ヴィラ＝ロボスによるピアノ独奏曲集《赤ちゃんの一族》は第 3 組曲まであり、第 1 組曲「人形たち」(全 8 曲)は 1918 年の作。人形の動きや性格を巧みに表現している。本日は 2 曲を抜粋でお届けする。

全 5 曲からなる歌曲集《わたしは音楽が大嫌い！》は、指揮者としても著名なレナード・バーンスタインが 1942 年に作曲。思わずクスッと笑ってしまうような、子供らしいユーモアに満ちた歌曲集である。

《子供の魔法の角笛》のテキストによる作品

『子供の魔法の角笛』は、19 世紀ドイツ・ロマン主義の文人、アヒム・フォン・アルニムとクレメンス・ブレンターノが収集した民謡詩集で、1806～08 年にかけて 3 巻が出版された。ドイツの「マザー・グース」とも呼ばれており、マーラーをはじめ、多くの作曲家にインスピレーションを与えた。

シューマンが 1849 年に作曲した《子供のための歌のアルバム》は、全 28 曲。その第 13 曲「テントウムシ」は、とても愛らしい曲。

ブラームスの《5 つの歌》作品 49 からは、1868 年に作曲された第 4 曲「子守歌」。「ブラームスの子守歌」としてもよく知られている。

オーストリアの作曲家ツェムリンスキーが 1934 年に作曲した《6 つの歌》の第 6 曲「せむしの小人さん」は、詩の内容とも相まって幻想的な曲。

1896 年に作曲された R.シュトラウスの《5 つの歌》の第 5 曲「天の使い」は、初々しい少年の恋心を歌う。

クリスティアン・シンディングは、ドイツ・ロマン派に影響を受けたノルウェー・ロマン派の作曲家。《子供の魔法の角笛より》は全 6 曲からなり、1888 年に初演された。今回は 3 曲を抜粋でお届けする。

1892～98 年にかけて作曲されたマーラーによる歌曲集《子供の魔法の角笛》(全 10

曲)は、同詩集を用いた歌曲のなかでも最も有名なものだろう。本日はその中から、2曲を抜粋でお届けする。

武満徹による《こどものためのピアノ小品》は1979年、NHKのテレビ番組「ピアノのおけいこ」のために作曲された。非常に短い「微風」と「雲」の2曲からなり、時折ジャズの香りが漂う。

東京出身の作曲家・木下牧子による抒情小曲集《月の角笛》(全12曲)は、1999年の出版。金子みすゞや新美南吉など、様々な詩人や童話作家の詩に付曲し、平易な日本語で紡がれた詩の世界を優しいメロディで表現している。本日は7曲を抜粋でお届けする。